

第1回 松山港港湾脱炭素化推進協議会 議事録

1 開催日時 令和6年2月8日(木) 13時30分～15時00分

2 開催場所 愛媛県中予地方局 7階大会議室

3 議事

- (1) 松山港の概要
- (2) 四国地方整備局からの情報提供
- (3) 四国経済産業局からの情報提供
- (4) 中国四国地方環境事務所四国事務所からの情報提供
- (5) 港湾脱炭素化推進計画の策定・協議会の進め方
- (6) 意見交換

4 議事要旨

- (1) 開会
- (2) 主催者挨拶
- (3) 構成員・出席者紹介
- (4) 協議会設置要綱
- (5) 会長及び副会長選出

(6) 議事

ア 松山港の概要

事務局から内容説明

イ 四国地方整備局からの情報提供

四国地方整備局から内容説明

ウ 四国経済産業局からの情報提供

四国経済産業局から内容説明

エ 中国四国地方環境事務所四国事務所からの情報提供

中国四国地方環境事務所四国事務所から内容説明

オ 港湾脱炭素化推進計画の策定・協議会の進め方

事務局から内容説明

カ 意見交換

・船舶の燃料転換について、バイオ燃料や合成燃料、アンモニア系の燃料等は技術開発中であるため、どの燃料に転換するのは検討段階である。

・停泊中の船内でのCO₂を削減する方法として陸上電力供給システム(陸電)を検討している。現在、国際的な機関であるIMOにて、陸電の標準化の議論がされており、当協議会にて陸電に関して検討を行う際は、IMOの方針も反映して頂きたい。国内では、船内の電源が60Hzに統一されているため松山港に関して問題は無いが、陸電を東日本に展開するとなると課題が出てくるため、今後、全国的にそういった議論が必要になる。

・発電設備の燃料を化石燃料からガス燃料へ転換することで、CO₂排出量を削減している。他の代替エネルギーの活用(水素の混焼等)については、これから検討を進めていく。

・設備投資については、ICP(どれだけCO₂を削減するのかという意思決定)を記載することで、経営層が投資額等の判断を行っている。各製品についても、LCA(ライフサイクルアセスメント:工業製品や農業製品が作られ、その役目を終えるまでに辿る一連の流れを、評価や査定すること)を導入し、どれだけ工程を改善できるか等の検討を順次進めている。

・自社でも CO2 削減に取り組むが、原料の仕入れ等、社外で発生する CO2 については、物流に関しても製品仕様に関しても、近隣の事業者様の協力なくして難しいため、この協議会を通して協力体制を築くことが出来れば、相乗効果で CO2 の大幅削減にもつながっていくと思う。

・脱炭素化は個々で出来るものではなく、各事業者、各企業の共通の課題であるため、協議会にて連携及び情報共有等、協力して脱炭素化に取り組んでいけるような場を提供していきたい。

・愛媛県が積極的に脱炭素化に取り組む事で、愛媛県を代表する港湾の一つである松山港が競争力の高い港湾になり、また、行政だけでなく港湾周辺で活動している企業、荷主や船会社、物流事業者にもご協力頂きながら、競争力を強化していくことが必須である。

・外港地区のコンテナターミナルで利用しているトランスファークレーン 3 基を CO2 の排出が従来よりも少ないハイブリット式に更新するといった取組を行っている。

・港湾管理者としては、国の補助制度等を情報提供する場を設けることや、脱炭素化に取り組む事業者に対して認証制度等によりインセンティブを取得できる制度の導入などを検討していきたい。

・松山港が競争力のある港であり続けるため、また、各事業者が競争力を保ち続けるための環境整備を行う上でも、港湾脱炭素化推進計画を策定していくことが第一歩であると考えている。この機会を捉えて、脱炭素化が進む世界の中で、これからも持続的に事業を営んでいけるような地域づくりのきっかけとなる港の脱炭素化にご協力頂きたい。

(7) 閉会

事務連絡：次回の協議会は 7 月頃を予定。